

〈6月定例研究会〉

平成27年6月13日に定例研究会がありました。

テーマは「文字の学習」です。

午後5時から5時30分まで研究授業、6時から研究協議がありました。

研究授業者:高橋 敦子(つばき教育研究所スタッフ)

テーマ:「文字の学習」

学習内容:「文字の学習」の導入の段階の学習

I. 指導経過

1. 指導開始時の様子

平成25年7月から月2回の指導を行ってきた。

初回から着席ができて呈示された課題に取り組む様子が見られた。学習中は応答、要求、拒否などの発語はみられなかった。拒否の時は物を押し返す、怒るなどの様子が見られた。また援助を嫌がり全て自分でやりたがった。

課題の内容は、3月の体験学習の際の以下の様子を踏まえ、検討した。

- ・具体物同士で見本と同じ具体物を2者択一で選択ができた。(組み合わせ1つ)
- ・絵カードの上に絵カードと同じ具体物を対応できた。(組み合わせ3つ)
- ・絵カード同士で見本と同じ絵カードを2者択一で選択できた。(組み合わせ2つ)
- ・色と対応しながら10色ぐらいの名称を言うことができた。
- ・2～3音節の単語の音声模倣ができた。
- ・複雑な形のはめ板が概ねできた。

上記の様子から文字の学習に入るための学習を行うことができると考えた。1時間着席することは難しいのではないかと考え、学習時間を前後半に分け、間に休憩時間を設けた。休憩時間には母親の所に行き、「ママ、おもちゃください」と言って玩具をもらい遊んだ。

2. 文字学習に入るための学習

(1) 同じ概念形成 (H.25年7月～H.26年9月)

- ①同じ組み合わせで具体物同士の見本合わせ、具体物と絵カードの見本合わせ、絵カード同士の見本合わせまで一連で行った。

黄色の柄のフォーク(正)と黄色の柄のはさみ(誤)の組み合わせや、模様がついている赤い歯ブラシ(正)と赤いナイフ(誤)の組み合わせなど、正誤の差を近づけても弁別できるようになったので、次の課題に進んだ。

②見本と正誤の選択肢に絵カードを用いた見本合わせ

i 基本図形+ α

帽子をかぶっている子とかぶっていない子

玩具の車を持っているノンタンとラッパを持っているノンタンなど

ii 基本図形の変化

寝ている子と立っている子

万歳をしている子と手を下げている子など

- ・初めの頃は正選択肢の絵の α の名称を言ってポインティングしたり、絵と同じ動作をしたりして呈示した。次第に援助がなくても弁別し選択できるようになった。

(2) 形の弁別 (H.25年7月~H.26年7月)

①○△□のはめ板を用いた弁別学習

②線図形や面図形のはめ板の学習

③②のはめ板の線図形や面図形カードを用いた見本合わせの学習

- ・①開始直後すぐにできるようになった。
- ・②形とはめ板の両方を見比べながらはめることができるようになった。
- ・③よく見て弁別し選択できるようになった。

(3) 未測定の理解 (H.25年9月~12月)

①高中低の管さし (3個、5個)

②○の大中小 (3個、5個)

- ・5個の場合選択肢が僅差なので難易度が高いと考えていたが、入れ子の玩具が好きで家で遊んでいた為か課題の理解が早かった。

(4) 空間概念の形成

①順序 (H.25年7月~9月)

i 5個の○を順番にはめる

ii 5個の棒を順番に入れる

- ・良く見て順番にはめたり、入れたりすることができた。

②上下 (H.26年11月~H.27年1月)

- ・机の上に置ける小さい机の上下に置いた見本を見て、それぞれ同じ場所に置くことができた。同様に絵カードで見本合わせの学習を行った。初めの頃は上や下の言葉かけや指差しの援助を行った。

③左右 (H.27年2月~現在)

- ・左右それぞれの方向を向いている型はめを用いて行っている。(赤ちゃん、象の左右) 型にそれぞれの形を対応することはできるが、見本合わせはまだ難しく学習中である。

(5) 仲間集め (H.26年5月~H.27年1月)

- ・同じの概念形成①の学習終了後に、以下の仲間集めの学習に入った。分ける物は2種類にした。名称が分かる野菜や果物や日用品があったので、それらを用いた。分けた後、一緒に名称を言

った。

①具体物を用いた仲間集め

- ・コップとバナナ、ニンジンとフォーク、みかんと車など、概念が異なる物同士でできるようになった後、スプーンとコップ、ハンカチとくつした等、次第に概念が似たもの同士でも分けることができるようになった。

②具体物、絵の切り抜き、絵カードを用いた仲間集め

- ・初めは①の具体物同士でできるようになったもので行った。
次元の異なる物を分けることは難しいことが予想できたので、一つ一つ名称を言ったり、入れるところを指差ししたりして、教えながら行った。
初めの頃は難しい様子だったが、名称を言ってあげることで理解していったようである。切り抜き絵カード同士、絵カード同士を重ねる様子が見られた。

3. 書字の学習に入るために

(1) 目と手の協応 (H.25年7月～現在)

- ・ビーズ通し、玩具の野菜切り、補助が有るハサミで紙を切る、ピンセットで挟む等の操作性の課題を取り入れた。手を使うことは好きで、積極的に取り組むことができた。

(2) 塗り絵 (H.25年7月～H.26年3月)

- ・野菜や果物や色の名称を知っていたのでそれらの塗り絵を行った。
枠線の方に合わせて塗れるようになった。また見本を見て色分けして塗ることもできるようになった。

(3) 空間の理解 (H.26年10月～現在)

①点の定位

- ・初めは、角材で区切られた板に見本の絵カードを置く教材を用いた。本来ならば空間に置く物は同じ物を使わなければならないのだったが、位置の違いを弁別するのは難しいと考え位置によって異なる絵のカードを用いた。上下に用いた2マスの板を左右で用いた時、上下に向きを変えたり、また絵カードを自分の置きたいところに置こうとしたり、課題を伝えるのが難しかったので一旦中断した。
- ・現在は絵が印刷されたものを見本として用いている。
見本を見て、上下・左右の1か所に置くことができるようになった。上下左右の4マスは1か所と、上・下のそれぞれ2か所、左・右のそれぞれ2か所に置くことはできるようになった。現在は右中左の3マスの1か所に置く学習を行っている。

②線の定位

- ・十字リーダーがある口の線の上に透明板にはさんだ黒い線を定位する教材を用いた。
線の長さに関係なく、上下・左右どの方向でも置くことができるようになってきている。

③線を書く

- i 黒地に白抜きの線分の中に鉛筆で書く学習

- ・書く前には必ずなぞらせた。始点と終点の点でほぼ止めることができるようになった。交差する線も書けるようになってきている。
- ii 曲線が書いてあるプリント（迷路など）を用いて書く学習
 - ・長い曲線を書けるようになってきている。

4. 文字学習（H.27年2月～現在）

(1) 絵カードを見て名称と一緒に発声する学習

- ・仲間分けの学習に入った頃から行なってきた。
- 色、日用品の物（くつ、かばん、テレビ、ごはん、はぶらし等）、野菜、果物、動物
音声模倣ができたので物の名称を覚えることをねらいにした。

(2) 絵の名称を言い、その名称（特殊音を除く）の文字と一緒に指差しながら発声する学習

- ・(1)で行った物を題材にした。文字を見慣れること、1文字ずつ指差して発声することをねらいにした。2文字は指差して一緒に発声することができるようになってきているが、3文字以上はまだ難しい。

(3) 「め」「て」「は」「き」「あし」「なす」「なし」「かき」の絵の名称を言い、その名称の文字を指差しながら一緒に発声する学習

(4) 「め」「て」「は」「き」「あし」「なす」「なし」「かき」の絵の名称を聞いて選択する学習

- ・(3)と(4)は文字学習に入る直前の学習として行ってきた。
- 絵カード見ながら名称を言えるようになってきている。絵の名称を聞いて絵カードを選択する課題では「め」がまだ難しい。

(5) 「き」の文字の学習

- ・1文字の単語でよく知っていた「き」の文字学習から入っている。

II. 本時の指導

1. 学習課題・ねらい・教材

学習課題	ねらい	教材
名称の理解 ・名称を言う ・絵カード選択	・絵カードの名称を言うことができる。 ・名称を聞いて絵カードを選択できる。	「め」「て」「は」「き」「あし」の絵カード
絵と対応している文字を読む	・絵と対応している文字と一緒に指差しながら読むことができる。	絵とその絵の名称が書いてあるカード 「め」「て」「は」「き」 「あし」「かき」「なし」「なす」
文字の学習	・絵カードの名称と一緒に言うことができる。 ・文字と一緒に読むことができる。 ・「き」と「て」の文字を書き順通りに書	1文字用構成板 「き」の絵カード、「き」、「ん」の文字カード 「て」の絵カード、「て」、「／」のカード 「き」「て」と中抜きで書いてある書字用紙

	くことができる。	鉛筆
点の定位	見本と同じ位置に絵カードを置くことができる。	子ども用; 右、中、左の3つのマス目があるカード、4つのマトリックスのマス目があるカード 見本用; 3つのマス目の1か所に絵が描いてあるカード、4つのマトリックスのマス目の1か所に絵が書いてあるカード
パズルの構成	見本を見ながら構成できる	「ひこうき」「車」「犬」のパズル
型はめ	型を見て型と同じ形をはめることができる。	以上の絵の型はめやアルファベットの型はめ
布の絵本	指導者と一緒に絵本を見ることができる。	布の絵本

2. 展開

学習項目	学習内容	学習活動	留意点
1. 呼名、挨拶	・名前を呼ぶ 「始めます」と言う	・返事をする。 「始めます」と言う。	・目を見合わせる。
2. 絵の型はめ	・2つの型はめを呈示し、どちらを行うか問う。 (2回) ・はめ終わったら「できた」と一緒に言う。	・好きな方を選択する。 ・よく見てはめる。 ・「できた」と一緒に言う。	※以下、どの課題においても拍手をしてよく褒める。
3. 名称を言う 「め」「は」「て」 「き」「あし」	【「め」の絵カードの場合】 ①絵カード「め」を呈示 ②「め」と言う ・「これは『め』。一緒に『め』と言います。」 半拍先に「め」と言う。 ③絵と実際の目と対応する。 ・指導者の目を指差して「先生の目」、子どもの目を指差し「〇〇くんの目。同じ。」と言う。 「一緒に同じと言います。」 「これとこれは同じ」と一緒に言う。 ④「め」と言う。 ・「一緒に『め』と言います。『め』と半拍先に言う。	①絵カードを見る。 ②「め」と一緒に言う。 ③「同じ」と言う。 ④一緒に「め」と言う。	・絵カードを見ない場合は「見てね。」と言う。 ・以下の課題で名称や「同じ」の発声があなかった場合は一回だけ促す。

	<p>【「は」「て」「あし」「き」】</p> <p>同様に「て」「は」「あし」を行う。</p> <p>「き」は実物との対応は無く、名称と一緒に言う。</p>		
<p>4. 絵カード選択</p> <p>「め」「は」「て」「き」「あし」</p>	<p>【「め」の絵カードの選択の場合】</p> <p>①絵の名称を言う。</p> <p>・「先生が言ったカードを取ってください。」と言う。</p> <p>『め』と言う。</p> <p>右から「は」「め」の絵カードを置く。</p> <p>『め』と言う。</p> <p>②「め」と言う。</p> <p>・上記3の「名称を言う」と同様に進行。</p> <p>・次に「は」を課題にして①②を行う。</p> <p>・同様に以下の組み合わせで行う。</p> <p>「て」と「は」、「あし」と「き」</p>	<p>①先生を見る。</p> <p>絵カードを見る。</p> <p>②「め」の絵カードを取る。</p>	<p>・間違いそうな時は指差して教え、再試行する。</p> <p>・以下の課題で名称や「同じ」の発声がなかった場合は一回だけ促す。</p>
<p>5. 1文字の学習 「き」</p>	<p>(1)「き」の学習</p> <p>【1試行目】</p> <p>① 構成板を呈示する。</p> <p>② 「き」の絵カードの名称を言う。</p> <p>「これは『き』。一緒に『き』と言います。」と言って半拍先に「き」と言う。</p> <p>③構成板の文字カードの枠を指差し、「き」と言う。</p> <p>「ここにも『き』を作ります。『き』と一緒に言います。」と言い、半拍先に「き」と言う。</p> <p>④「き」の文字カードを呈示する。</p> <p>⑤構成板の文字カードの枠に、子どもが「き」の文字カードを入れる。</p> <p>構成板の文字カードの枠を指差して「ここに『き』を作ってください」と言う。</p> <p>⑥絵カードの「き」と文字カードの「き」が同じであることを言う。</p> <p>「一緒に言います」と言い、絵カードの「き」を指差して、「これは『き』。」と半拍先に言</p>	<p>①呈示版を見る。</p> <p>②一緒に「き」と言う。</p> <p>③一緒に「き」と言う。</p> <p>④「き」の文字カードを見る。</p> <p>⑤「き」の文字カードを構成板に入れる。</p> <p>⑥一緒に「き」と言う。</p> <p>一緒に「き」と読む。</p>	<p>・以下の課題で名称や「同じ」の発声がなかった場合は一回だけ促す。</p>

	<p>う。</p> <p>文字カードの「き」を指差して「これも『き』。」両方を指差して「これとこれ『同じ』。」と言う</p> <p>「一緒に『同じ』と言います。」と言う。一緒に「同じ」と言う。</p> <p>【1 試行目：書字】</p> <p>①書字用紙を呈示する。</p> <p>書字用紙を呈示して、「ここにも『き』と書きます」と言う。</p> <p>②「き」の文字をなぞる。</p> <p>書字用紙の白抜きになっている「き」を指差して</p> <p>「『き』をなぞってください」と言う。</p> <p>③「き」を書く</p> <p>「『き』を書いてください。」と言う。</p> <p>④書いた「き」を読む。</p> <p>「一緒に読みます。」と言う。半拍先に「き」と発声する。</p> <p>⑤絵カードの「き」と書いた「き」が同じであることを言う。</p> <p>「一緒に言います」と言い絵カードの「き」を指差して「これは『き』。」と半拍先と言う。</p> <p>書いた「き」を指差して「これも『き』。」両方を指差して「これとこれ『同じ』。」と言う。</p> <p>「一緒に『同じ』と言います。」と言う。</p> <p>一緒に「同じ」と言う。</p> <p>【2 試行目】</p> <p>誤選択肢「ん」を用いる。</p> <p>正選択肢「き」後出し利き手側呈示</p> <p>正誤の選択肢の文字は発声しないで呈示。</p> <p>構成と書字は1試行目と同様に行う。</p> <p>【3 試行目】</p> <p>誤選択肢「ん」を用いる</p>	<p>一緒に「同じ」と言う。</p> <p>①書字用紙を見る。</p> <p>②書字用紙の「き」をなぞる。</p> <p>③「き」と書く。</p> <p>④一緒に「き」と読む。</p> <p>⑤「き」と一緒に言う</p> <p>一緒に「き」と読む。</p> <p>「同じ」と言う。</p> <p>・正選択肢「き」の文字カードを入れる。</p> <p>・正選択肢「き」の文字カードを入れる。</p>	<p>・間違いそうな時は指差して教える。</p>
--	---	--	--------------------------

	<p>正選択肢「き」後出し反利き手側呈示 2 試行目と同様に行う。</p>		<p>・間違いそうな時は指差して教える。</p>
<p>6. 点の定位 (1) 右、中、左の3マス</p>	<p>(1) 右、中、左の3マス 【右定位の場合】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見本は子ども用の紙の上に呈示する。 ①見本を呈示する。 <ul style="list-style-type: none"> ・絵が書いてある所を指差しながら「このこと同じ所においてください。」と言う。 ②子ども用のマス目がある紙を呈示する。 <ul style="list-style-type: none"> ・「これは〇〇ちゃんのです。」と言って、子ども用のマス目が書いてある紙を呈示する。 ③見本と同じ所に置く <ul style="list-style-type: none"> ・見本を指差しながら、「〇〇ちゃんもここと同じ所に置いてください。」と言って、見本と同じ絵のカードを呈示する。 ④先生と子どもの絵の位置が同じであることを確かめる。 <ul style="list-style-type: none"> ・見本と子ども用のカードの絵を指差しながら「先生のはここです。〇〇ちゃんのもここです。同じだね。」と言う。 <p>・同様に以下の定位を行う。</p> <p>2 試行目：見本の絵の位置が中 3 試行目：見本の絵の位置が左</p>	<p>①見本を見る。</p> <p>②子ども用の紙を見る。</p> <p>③見本と同じ所に絵カードを置く。</p> <p>④両方のカードを見る。</p>	<p>・見本をよく見ているか確認する。</p> <p>・間違いそうな時は指差して置く所を教える。</p>
<p>(2) 上下左右の4マス</p>	<p>(2) 上下右左の4マス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(1)と同様に以下の課題を行う。 1 試行目：見本の絵の位置が右上と左下 2 試行目：見本の絵の位置が左上と右下 		
<p>7. 1文字の学習「て」</p>	<p>(2)「て」の学習 【1試行目】 「き」の場合と同様に行う。 【2 試行目】 誤選択肢「／」のカードを用いる。 正選択肢「て」後出し利き手側呈示 構成と書字は 1 試行目と同様に行う。</p>	<p>・正選択肢「て」を選択して入れる。</p>	<p>間違いそうな時は指差して教える。</p>

8. パズルの構成	<p>「車」、「犬」「飛行機」の3枚の絵カードを並べて、どれから行なうか問う。</p> <p>【車の場合】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「どれからしますか。」と問う。 ・「『車ください』とってください。」と言う。 ・車のパズルを渡す。 ・車のパズルを受け取る。 <p>他のパズルも同様に行なう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・車の絵カードを取る。 ・「車ください。」と言う。 ・車のパズルをもらい行う。 ・作り終えたら先生に渡す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・難しそうな時は様子を見ながら援助する。
9. 布の絵本	<p>布の絵本を呈示する</p> <p>話をしながら一緒に見る</p>	<p>一緒に絵本を見る。</p>	
10. 絵の文字を読む	<ul style="list-style-type: none"> ・絵と対応する文字が書いてあるカードを一枚一枚呈示して一緒に読む。 <p>【「め」の場合】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「一緒に読みます。指差してください」と言う。 <p>絵を指差して半拍先に「これは『め』、文字を指差しこれも『め』、「これとこれは同じ」と言う。</p> <p>以下のカードも同様に行う。</p> <p>「て」「は」「き」「あし」「かき」「なし」「なす」</p>	<p>絵の名称を言った後文字を指差しながら一緒に読む。</p> <p>絵を指差しながら、「め」、文字を指差しながら「め」と一緒に言う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・文字を指差さない場合は1回、指差すように促す。
11. 挨拶	<ul style="list-style-type: none"> ・「終わります」と言う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「終わります」と言う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目を合わせる。

Ⅲ. 研究協議

研究会には特別支援学校の先生方や障害者の支援施設の方の参加がありました。

研究授業の後、研究協議が行なわれました。授業者から、文字学習に入るための「基礎学習」、書字の学習にはいるための「目と手の協応の学習」や「空間理解の学習(点の定位・線の定位)」、そして、物の用途や名称の理解の学習を積んできたとの説明がありました。初めの頃は、意図伝達手段が未熟であったため、意図を理解することが難しかったということや、相手に合わせることがまだ難しい段階であるため、課題のやり方を伝えるのが難しいとの話がありました。参加者からは、以下のような意見や感想がでました。

- ・よく見て、よく見比べて選択する視覚弁別の力がまだ十分に形成されていないので、よく見るための工夫として、選択肢を呈示する際に呈示板を用いることや、呈示の位置を考慮する必要があるのではないかと。
- ・見てもらうための「見てね」、見たことをフィードバックするための「見たね」のことが大切である。
- ・絵や文字のカードを選択して取る際に両手がでることが多いので、利き手を決めて働きかけてはどうか。
- ・学習において、指導者とお子さんの課題を進める上でのルール作りが大切である。少しずつそのルールを理解して、相手に合わせられるようになってきている。
- ・型はめやパズルの課題は、本当によく見てできるようになっている。

また、参加者の一人が子どもになって、理事長の宮城が、「1文字の単語」の学習と、「2文字の単語」の構成の実践を行いました。「1文字の単語」の学習では、正選択肢の文字カードを利き手側に呈示するのか、反利き手側に呈示するのか、誤選択肢の後に呈示するのか、先に呈示するのかによって難易度が異なるとの説明がありました。「2文字の単語」の構成の学習では、正選択肢と誤選択肢の呈示の難易度を考慮することは言うまでもないが、語頭の文字から順番に構成することを教えることが最も重要であるとの話がありました。

今回の定例研究会では、「文字の学習」に入るために必要な学習について学ぶことができました。また実際の「文字の学習」の方法について改めて学ぶこともできました。ありがとうございました。次回も参加者の方と一緒に学習ができましたら幸いです。多くの方のご参加をお待ちしております。